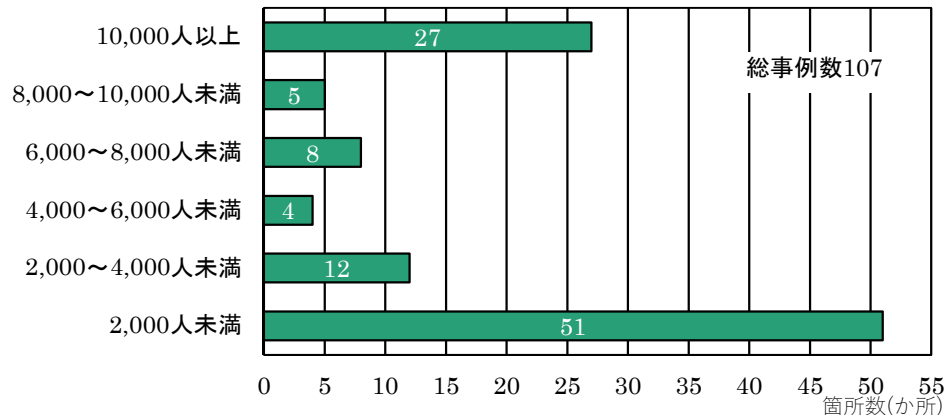


河川空間活用の状況

- 1キロメッシュ人口が1万人以上の高密度地区（都市部）と2000人未満の低密度地区（郊外部）において、**河川空間のオープン化**が推進
 - 2000人～1万人未満規模の地域においても優良事例が存在することから(愛知県岡崎市、静岡県島田市)河川空間活用事例数の増加によって、河川空間のオープン化が一層推進される可能性。
- **河川空間を活用とした賑わいの創出と治水上の安全性確保との両立**
 - 豪雨や洪水時のイベント等の中止・延期判断基準の整備
 - 天気予報等をも活用した主催者による早期、自主的な中止・延期判断（愛知県岡崎市）
 - 計画高水位よりも高い河川空間（堤防天端）での通年的な活用（静岡県島田市、新潟県見附市等）
- **市が策定する総合計画の中に他事業と組み合わせた河川空間の活用を位置付け**
 - 河川空間、道路空間および公園等の一体的な活用と担い手を巻き込む工夫により川の関係人口が大きく増加（愛知県岡崎市）
 - 河川空間の活用と観光・地域振興（静岡県島田市）

メッシュ人口(2020年国勢調査)



2020年の1キロメッシュ人口規模別のオープン化
実施箇所数



写真 河川空間の活用(左・乙川ナイトマーケットの様子(愛知県岡崎市)、右・堤防天端に整備された茶屋の活用(静岡県島田市)
いずれも国土交通政策研究所撮影)